



立川第八中学校

宇宙船

平成29年度 第11号

(平成30年3月前期号)

URL <http://www.tachikawa.ed.jp/jh08/>

〒190-0013 立川市富士見町7-24-1 TEL(042)526-2007 FAX(042)529-1180

立川市立立川第八中学校長 川崎 達也

だから今

今から7年前、平成23年3月11日午後に発生した東日本大震災、決して忘れてはならない出来事です。当時私は、校長として他市の学校に勤務していました。3年生を送る会の最中に発生したことを鮮明に覚えています。

今回その3月末に書いた学校だよりの原稿を読み返してみました。この時はまだ東日本大震災という名称がついていなかっただけでなく被害の全容も分かっていませんでした。今回、皆さんに深く考えてほしいと思い、また皆さんならしっかりと考えてくれると信じ、7年経った今、改めてそのとき書いた原稿を掲載させていただきます。

東北・関東大震災が発生し、東北各県及び関東北部では多くの尊い命が一瞬の内に失われ、まだまだその全容を把握するには至っていないという未曾有の状況です。また、幸いにも一命を取り留めた方も、生活の基盤を完全に失っています。福島の子原子力発電所も決して予断を許さない状況で、住民避難や農作物の出荷停止など大変な状況が続いています。この場をお借りして心よりお悔みを申し上げると共に、常に応援している気持ちを伝えたいと思います。

連日の悲しいニュースや厳しいニュースが続き、今我が国は大変大きな試練を背負っています。そんな中、テレビに映し出された被災者の冷静・沈着な対応に、世界中から称賛の声が相次いでいます。非常時であっても略奪や暴動といった反社会的な事象が全く発生せず、困難な状況でもじっと我慢をすると同時に、周囲への配慮を忘れない日本人の冷静さ、モラルの高さが高く評価されています。

アメリカの新聞は、「足をけがして救急搬送をされた年配の女性が、痛みがあるにもかかわらず、迷惑をわびた上で、ほかの被災者を案じる様子」や「仙台空港で避難中のある70歳の男性が、空港付近の住民が自発的に毎朝持ってきてくれるおにぎりを食べながら『私は人生で最もおいしいおにぎりを食べている』と感激した」と報じ、「非の打ち所のないマナーは、まったく損なわれていない」という見出しで、思いやりを忘れない日本人たちと称賛しています。

また、韓国の新聞では、「毅然としている」、「沈着な対応」などと称賛し、「今回の地震で、日本国民が受けた悲しみや傷ははかり知れないほどと紹介し、しかし、その悲しみを抑えようと努める姿に、『やっぱり日本だ』という言葉がおのずと出る」と伝えています。同じ韓国のインターネットの書き込みには、「我が国では泣きわめいて、誰かのせいにして修羅場になるが、日本は秩序を保っている」、「高い市民意識に脱帽、見習うべき」などの書き込みが多く寄せられているとのこと。

今、関東地方ではガソリンやお米、食料品等の買い溜めが問題になっていますが、同じ日本の中でも、地震で負傷した患者に緊急輸血が必要だというニュースが報道されると、愛媛県松山市や鳥取市では、平日にもかかわらず数百メートルの列ができ、献血まで一時間以上待ち、その献血者の三分の一は献血経験がない人だという報道もあります。その他にも多くの市民が、物資の援助や募金など支援の輪に加わっています。

当該の被災現場では、各種役所の方・医療関係者・警察官・自衛隊員・消防官・消防団員・地域住民の方など何万人の方がほぼ寝ない様な状況の中でも懸命に対応しています。その中には自分の家族の安否の確認が出来ていない人も含まれているが、職務に遂行しているという報道もありました。原子力発電所の事故対応でも、警察官や消防官、自衛隊員、各メーカーの社員、もちろん現場の東京電力社員が、自分の命を顧みることよりも恐れず、決死の覚悟で作業にあたっています。これは同じ日本人として何よりも誇るべき事であると同時に、最も大切にしなければならない事であると考えます。

日頃の朝礼などで、皆さんに「社会の歯車になろう」とお話ししてきました。歯車は決して目立つものではありませんが、小さくても歯車が無ければ円滑に動くことは出来ません。小さくても大きな役割を担っています。今の厳しい状況での様々な活躍は、決して名前が出たり、目立つものではありません。しかし、日本人が持つ「周りへの配慮」「気配り」「連帯」「責任感」、そして何よりも「優しさ」があるからこそできるものであると考えます。

悲しいニュースの中で、このような記事がありました。《劣悪な状況の中でも温情を失わない日本人》という

題で、「避難所でおじいさんが『先が真っ暗だ』と話すと、隣にいた高校生が『大丈夫です。私たちが大人になれば必ず元通りに戻します』と言っておじいさんの背中をさすった。」大丈夫、未来は明るいと言えたものです。

希望が無くなった訳ではありません。悲しみや辛さを超え、周囲を信じ、自分の役割を果たし、皆で力を合わせて行けば、必ず明るい未来は来るはず。 (中略) 大学生や社会人であれば、今後ボランティアとして活動するなど直接的な支援をすることが出来るでしょう。しかし中学生の皆さんに今出来ることは限られています。急ぎよ生徒会役員の発案で、学校内や西武線の駅頭で募金活動をするようになりました。これも大きな応援する力です。では、その他にも今何をすればよいのか・・・？それは皆さん一人ひとりが、身近な毎日の部活動などの学校生活や、お手伝いなどの家庭生活などを一生懸命にやることです。なぜなら、これからの明るい未来を創り上げていくのは皆さんなのですから、今は出来ることを前向きに一生懸命に取り組むことが必要なのです。それが今できる最大の支援でもあると考えます。 【平成23年3月23日発行の文章より】

電車押す輪 自然と 駅員が難航 乗客も次々

「JR南浦和駅 女性救出」

さいたま市のJR南浦和駅で乗客の女性が電車とホームの隙間に転落して救出されるまでの約8分間の様子がJR東日本大宮支社などへの取材で明らかになった。女性を引っ張り上げるため、車両を押し始めた駅員に、周囲にいた客らが協力の手を差し伸べた。

同支社などによると転落したのは埼玉県に住む30代の女性。午前9時15分頃、京浜東北線の大宮発磯子行き普通電車の4両目から降りようとした際、足を踏み外し、右足が電車とホームの間の10センチの隙間に入った。ホーム這い上がろうとしたが左の足も落ち、へそのあたりまで隙間に入ってしまった。

転落に気付いた客がホームに設置された「列車非常停止ボタン」を押し、駅事務室から16人の駅員が駆けつけた。2人の駅員が女性を引っ張り出そうとしたが上手く行かず、別の駅員がとさきに車両を両手で押したところ、周囲の乗客や別の駅員も一緒に押し始めた。その数は40人に達した。「押しますよ！せーの！」という駅員のかげ声に合わせて押すと、重さ約3.2トンの車両が傾き、ホームとの隙間が広がった。

2人の駅員が女性を引っ張り上げると乗客から拍手や歓声があがり、万歳して喜ぶ人も。女性に目立ったけがはなく、駅員に「自分の不注意で落ちてしまい、ご迷惑をおかけしました。ありがとうございます」とはなしたという。現場に立ち会ったベテラン駅員は「こんなに感動したのは初めて」と語ったという。翌日には同駅の階段や改札には張り紙をし、ホームで異例のアナウンスを流した。「多数のお客様にご協力いただき、無事に救出することができました。ご協力いただきました皆様、心より感謝申し上げます」

平成25年7月31日(水)の読売新聞朝刊より

いじめ防止教室(2月1日)



いじめ防止教室に、元校長先生の滝澤雅彦先生を講師にお迎えして、1、2年生を対象に授業が行われました。「有縁」の大切さ、「いじめの何がダメなのか」「ダイバーシティ=多様性」「生きる力とは、死なない力」などいくつもの心に残るキーワードを教えていただき、生徒も真剣に話を聞いていました。富屋旅館のお話もとても心に響きました。学んだことを学校生活の中に活かし、となりの人を愛せる八中生でいきましょう。

2年生百人一首大会の様子(2月16日)



2年生の百人一首大会が体育館で行われました。寒さを感じないほど、熱気ある真剣勝負がとてもたのしく感じました。授業で習った成果をみんなで共有することは大切です。来年度は一年生がスキー移動教室で大町の中学生と百人一首大会を行うことが計画されています。

【3月の予定】

- 3月8日(木) 一年保護者会
- 9日(金) 都立高等学校二次・分割後期募集学力検査、二年保護者会
- 13日(火) 山下洋輔ジャズピアノコンサート(13:30 始)、学校評議員会、三年保護者会
- 15日(木) 都立高等学校二次・分割後期募集発表、PTA運営委員会(19:00 始)
- 20日(火) 第40回卒業証書授与式(10時開式)、給食なし
- 23日(金) 修了式、給食なし